

皆既日食観測ツアー参加のささやかな記録

小原 弘貴 (1980変光)

2009年7月22日の皆既日食は、当初興味はあったものの、ツアー募集等については全くの傍観者であった。

それがTUDOBのML上でOB神原氏が、上海ツアーの募集を告知されたのをきっかけとして急遽参加へと転じることにしたのは、夏休みということもあり家族旅行を兼ねて行くことができる、と思ったからだ。とはいえ申し込み後の行動は遅く、本格的な準備に入ったのは7月に入ってからだった。

皆既日食の観測は初めてでそのための器材も持っていないので、今回は観望+観光程度の軽い気持ちであった。改めて高額な器材を揃えるつもりはなく、現有の器材で不足する物だけを買って足すことにした。世のデジタル化の波には乗り遅れているので、写真撮影は学生の頃から愛用のニコンFE2に300mm、F4.5の望遠レンズ+ND400という組み合わせで臨むことにした。事前に太陽を撮影し、この程度で十分と思っていた。さらにビデオを持参する予定だったが、こちらは直前まで何に使うか決めておらず最終的に日食の全行程を撮影することにした。機種はキャ

ノンI XYのDVM5。赤道儀は使わないので、三脚を新たに一本追加した。

観測地の平湖は上海からやや南に下った所で、観光農園の一面を借りて行なう手はずであった。前日の21日に現地入りし、まず観測場所を確認。宿泊施設のフロント正面にある広々とした敷地がそれで、貸切の状態だった。日中には平湖の地元テレビ局が取材に訪れて、我々が持参した器材等を交えての撮影が行なわれた。この模様は夜のニュース番組で放送された。この日の日中は天気も良かったのだが、夕食時から豪雨になった。

22日当日朝方は雨も小止みになり、朝食時には薄日も差ってきて、微かに期待が高まった。

朝食後、本格的に観測する組は敷地の最も開けた場所に陣取って、器材の設置を始めた。我が家は子連れのため、邪魔にならないよう、少し外れた場所に陣取った。カメラとビデオ2台の三脚を設置した。赤道儀は使わないので、太陽の動きに合わせてながら時々雲台を動かす程度のいい加減な撮影であった。前日のニュースで放映されたからか、

地元の見物客が我々の観測光景を眺めに来ていた。

太陽は第1接触の時から薄雲の中に顔を出している程度だったが、欠けていく様子はよくわかった。空は一時日差しも強くなったが雲の移動は激しく、太陽が見えていたのは第2接触の直前まで。もうすぐ第2接触に差し掛かろうかという時に、空は厚い雲に覆われ、やがて雨が降り出した。一同器材を抱えて宿泊棟フロントに駆け込んだ。その間に辺りは闇に包まれ、皆既状態に入ったことを、体感した。空が明るくなっても雨は止むことなく、TUDOB上海隊の皆既日食観測は終わった。

テレビ放映をビデオ撮影した画像から

